

調査の概要

1 調査の目的と方法

学力の低下がわが国の社会問題となっている。その原因を探ることは、無益ではあるまい。子どもたち自身になぜ勉強しないのかと聞いてもよいだろうが、子どもたちを取り巻く環境を丹念に積み上げてみる必要もある。

この調査は子どもを取り巻く環境と、子ども自身の意識に焦点を当てて行っている。要は学習についての意識とその環境を広く、いろんな角度からみようとしたものである。

授業中の態度、学習塾の利用、読書などの客観的事実のほか、勉強も含む、様々な活動に対する意欲、友達関係、親との関係、将来の職業意識、生活態度、結婚や恋愛についての意識、規範意識などを尋ねている。これを学力低下に迂遠なこととして退けてはならない。

こうした本人の意欲と客観的事実から浮き上がった現代日本の高校生像は、アメリカ及び中国の高校生と比較してみるのも有益である。

本研究はアメリカと中国で同時実施しており、さらに、一部の質問は10年前の調査結果と比較することができる。

調査の実施、調査対象などは次のとおりである。

	日本	アメリカ	中国
実施時期	2004年9月～11月	2004年10月～12月	2004年10月～12月
調査学校の数	11校	12校	12校
調査地域	北海道 新潟県 長野県 山梨県 東京都 埼玉県 静岡県 愛媛県 大阪府 福岡県 宮城県	Washington Idaho Salem, Oregon Eugene, Oregon Ohio Connecticut Colorado Garden City, Ks Kansas City, Ks Michigan California North Carolina	北京市(2校) ハルビン市 黒竜江省海林市 西安市(2校) 武漢市(2校) 重慶市(2校) 広東省順徳市 南寧市
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
サンプル数	1320票	1020票	1309票

2 調査内容

調査の内容は次のとおりである。

- 1) 好きな学科、学習塾
- 2) 学校外の勉強時間、睡眠時間
- 3) 勉強に対する態度
- 4) 日常生活と行動
- 5) 規範意識
- 6) 性格などについての自己評価
- 7) 仕事や将来についての考え方
- 8) 結婚や家族に対する考え方
- 9) 家庭のルール
- 10) 国に対する意識

3 調査対象者の基本属性

		日本	米国	中国
性別	1. 男	53.6	52.1	46.7
	2. 女	46.4	47.5	53.1
	無回答	0.0	0.5	0.2
学年	1. 高1	35.5	33.5	34.9
	2. 高2	33.1	30.8	45.5
	3. 高3	31.4	35.7	19.6
公私立	1. 公立	80.8	88.7	91.0
	2. 私立	19.2	11.3	9.0
種類	1. 普通科	89.1	100.0	89.5
	2. 職業科	10.9	0.0	10.5
実数(人)		1320	1020	1309

4 調査結果の概要

1 . 勉強について

学校以外の勉強時間が少ない

「学校以外ほとんど勉強しない」(平日) 日本 : 45.0%、米国 : 15.4%、中国 8.1%

勉強に対する態度が怠慢

「授業中、よく寝たり、ぼうっとしたりする」日本 : 73.3%、米国 48.5%、中国 28.8%

勉強に対する規範意識が薄い

「学校をさぼる」ことは「絶対してはならない」

日本 : 30.8%、米国 : 49.8%、中国 : 63.8%

2 . 日常行動 : 友達と常に電話やメールで繋がっている。

「友達とほぼ毎日電話やメールをする」日本 : 52.0%、米国 30.6%、中国 6.3%

毎日電話やメールをする時間も長い。「4 時間以上」日本 : 30.7%、米国 : 10.5%、中国 : 3.6%

3 . 生活態度

現在享楽主義

「いまの生活で何でもできるとしたら、一番したいのは好きなように遊んで暮らす」

日本 : 38.3%、米国 : 22.5%、中国 : 4.9%

「若い時は将来のことを思い悩むよりその時を大いに楽しむべき」

日本 : 50.7%、米国 : 39.7%、中国 19.5%

4 . 家庭と国について

家庭のルールが少ない

「金の使い方についてルールがある」日本 29.6%、米国 58.2%、中国 70.5%

「門限など時間を守ることにルールがある」日本 46.4%、米国 60.8%、中国 70.3%

「友人との付き合いについてルールがある」日本 11.1%、米国 35.8%、中国 51.3%

「勉強についてルールがある」日本 28.9%、米国 54.7%、中国 78.5%

老後の親の面倒

「どんなことをしてでも親の面倒をみたい」日本 : 43.1%、米国 67.9%、中国 : 84.0%

自分の国に誇りをあまりもっていない

「強くもっている」日本 : 15.4%、米国 : 29.4%、中国 : 29.3%

国歌を聞いて「誇らしいと感じる」日本 : 11.1%、米国 : 54.8%、中国 : 50.0%

国旗を見て「誇らしいと感じる」日本 : 13.3%、米国 : 53.9%、中国 : 48.4%